

# 第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「転生魔王と変身美少女の邂逅」

テーマ:「今は女の子なのに、元は女の子じゃない美少女」

キャラクター

55

ストーリー

50

テーマ(設定)

55

文章力

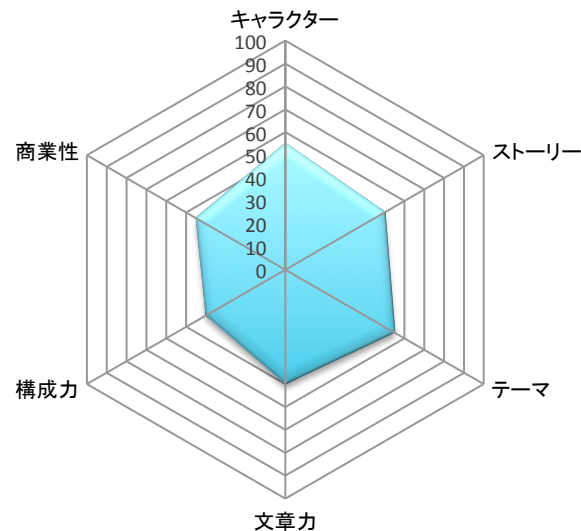
50

構成力

40

商業性

45



## ・見受けられる基礎的な問題点

- キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- 物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- 物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- 物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- 意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- 時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- 物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- 文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- 伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- 笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- 「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

## ・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・短編として成り立っていない。が、恐らくこれは長編を書く事を前提とした上で書かれた第一章「セツナと魔王の出会い」的な冒頭を切り抜いてきたものと思われるため、もしそうであるならば「起承転結がない」といった項目は無視を。  
 ・長編の第1章として考えると、少し冒頭のつかみが弱い。特に魔王が美少女に転生し、鏡を見てそれに気付くといった最初のシーンは結局魔王が地の文で「やばいやばい」と言っているだけで面白みに欠ける。例えばセツナに弟がいたこととして、魔王が乗り移ったセツナが朝廊下で会った弟に「お前誰だ……?」的な会話から始まって、最期に弟に「お母さん～お姉ちゃんがかまきりながら泣いてる～」的なことをいわせてシーン退場させれば、単に鏡を見たり股間をまさぐって絶望するよりよっぽどコメディらしい笑いは取れるのではないかな。  
 ・設定をもう少し詳しく説明した方が良いと思われる。例えば美少女の魔王の胸を具現化したセツナがもむといった状況は、結局はたから見るとセツナが二人いるのか、どういことになっているのか分かりにくい。  
 ・今回は最初に登場した魔王のライバルが結局登場しなかったなどを理由に短編としての点数はかなり低くせざるを得ないが、長編にしてラストにこのライバル戦をもつてくるといったコンセプトは王道の面白さがあると思われる。是非長編になった際にはその作品を読みたい。

合計加点ポイント 0

総得点: 295 / 600

B方式総合得点: 14504 点